



伊達市議会議長

高橋 一由

TAKAHASHI KAZUYOSHI

皆様、新年おめでとう
ございます。
令和になり初めての輝
かしい新春を、ご壮健に
て迎えられましたこと、
心よりお慶びを申し上げ
ます。
昨年は全国各地におい
て、災害の多い年であり
ました。本市においても、
台風19号等の豪雨災害に
より、多くの市民が被災

されています。被災さ
れた方々に対し、心より
お見舞いを申し上げます。
早期の復旧復興を目指
し一日も早く日常の生活
が取り戻せますよう、議
会として災害対策協議会
を設置し、また災害の検
証と防災対策を提言する
ために、令和元年台風19
号豪雨被害に関する調査
特別委員会を設置し、対
応しているところでござ
います。
本年こそは平穏で災害
の無い、「健康」で「幸」
多い年となりますよう、
年頭にあたり、衷心より
御祈念申し上げます。

さて、伊達市は平成18
年1月1日五町で合併を
選択し、15年目を迎えま
した。合併に伴う各種優
遇・経過措置も終了しつ
つあり、とりわけ、令和
3年度からは交付税算定
の特例がなくなり、より

一層の厳しい財政運営を
余儀なくされます。
従いまして、大型店を
実現するなど自主財源の
確保を図り、持続可能な
伊達市の構築を目指すこ
とが重要な課題であると
認識いたしております。
更に、我々伊達市議会
は、伊達市議会基本条例
の下、議会報告会並びに
意見交換会等を実施して
市民要望に応える体制が
整備されていますが、創
意と工夫と努力を怠るこ
となく、市民目線による
更なる議会改革を進め、
市民のための議会、市民
の大切な血税の使い道を
決定する最高議決機関に
ふさわしい議会運営を目
指し、市民から頼られる
議会となりますよう議員
の皆様と共に進めて参り
ますことをお誓い申し上
げ、新年のご挨拶といた
します。



伊達市長

須田 博行

SUDA HIROYUKI

令和2年の新しい年を迎
え、市民の皆様には如何お
過ごしのことでしょうか。
旧年中は、市政各般にわた
り、格別のご支援ご協力賜
り厚く御礼を申し上げます。
この度の台風19号により、
伊達市では大規模な浸水被
害や土砂災害に見舞われ、
住宅、道路・河川などの公
共施設、農林業や商工業な
ど地域産業に甚大な被害を
受けました。被災された皆
様に心よりお見舞い申し上

げますとともに、一日も早
く元の生活に戻れるよう生
活再建、産業復興など全力
で支援してまいります。特
に安心して生活するには浸
水被害の防止が急務だと考
えております。越水した河
川のかさ上げや排水ポンプ
の能力アップ、遊水池整備
などを関係機関に強く求め
てまいります。併せて、内
水排除対策やハザードマッ
プの見直し、災害時におけ
る組織体制の強化などを進
め、全力で治水・防災対策
に取り組んでまいります。
さて、昨年8月、相馬福
島道路の2020年度中
の全線開通が国土交通大臣
から発表されました。この
道路の整備により東北自動
車道と常磐自動車道が結ば
れ、さらには大型船舶や外
国船舶が常時出入りする特
定港に指定された相馬港と
も直結し、人やモノの流れ
がさらに活発になります。
このことが本市の経済発展

および地域振興に大いに貢
献するものと期待しており
ます。現在、各企業・団体
等が伊達市の地理的ポテン
シャルの高さに興味を示し
てくださっています。
伊達市では現在、若者を
はじめあらゆる世代が「住
んでみたい、住んで良かつ
たまち」を目指し施策を展
開しております。特に「働
く場が近くにあり、安心し
て子育てができ、健康で長
生きの伊達市」の創造に向
け、産業の振興、子育て教
育の充実、健康づくりを重
点施策として推進していま
ります。
今年はずみ年。新しい
十二支がスタートする年
になります。災害からの復旧・
復興を最優先で進めると
もに、未来へ向け「新しい
伊達市」の始まりの年にし
ていきたいと考えておりま
すので、今後とも変わらぬ
ご支援ご協力をお願いいた
します。